

新年会千鳥北区公民館で開催！



1月10日(土) 9時30分に、先ず“はなちどり”に集合し、道路側の土を耕すことから始めて、パンジー苗の植え付けを仕上げました。

引き続いての隣の千鳥北区公民館での新年会には薛先生も駆けつけて下さり、総勢19名で賑やかに楽しく盛り上がりました。ナゾナゾでは青崎・横大路会員の畑で採れた白菜や大根などの野菜景品が付き、今年1年の抱負では会員拡大が大切な課題だと改めて認識しました。

今回初めて、これまで緑が受賞した表彰状や盾を全て並べましたが、なかなかの壮観でした。

8年間の会員の活動の成果がこれらの評価につながったのだ、と感慨深いものがありました。

◆ はなちどり・初作業！

1月20日は今年度最初の「はなちどり」の園芸作業日に当たり、集まった会員は会う人毎に「今年もよろしく」と声掛け合っていました。当日は8名の会員とふくおかネット会員1名の参加があり、ポピーの小さな稚苗の鉢上げに取り組みました。会員はお互いに久しぶり会うことから、会話が弾み和気あいあいの中、24ケースの苗が並びましたが、みんなの気持ちが伝わりこれからの寒さに負けずに元気に育ってくれることを祈っています。

◆ 「植樹祭記念品用」竹炭を焼く！

1月21日夜も明けぬ早朝から、グリーンパークの炭窯で会員10名が集まり、今年の植樹祭で「育林行動皆勤者」にお配りする竹炭焼きに取り組みました。

窯の充填は17日に完了しており、この日は火入れを行い、煙の青色から透明色になる変化を観察しながら、竹炭焼き進行具合を判断し、2時過ぎに二つの窯の焚き口を封鎖して、この日の作業を終わりました。

炭焼きの途中には、おでん等会員の差し入れがあり、火煙具合の合間を見計らって楽しく味わい、差し入れに感謝していました。



◆ 緑の通信 が全国版のホームページに！

「古賀市緑のまちづくりの会通信」が、緑の会員で園芸福祉ふくおかネットのホームページ担当・谷口さんから日本園芸福祉普及協会のホームページに掲載されたとの報告を受けました。すでに園芸福祉ふくおかネットのホームページには毎月掲載されておりますが、全国版の園芸福祉普及協会のホームページに掲載されたことで、一層全国へのアピールが行き届くことと思います。古賀市緑のまちづくりの会としては、毎月の記事が全国の人びとが購読している条件でつくって行かねばならないと考えます。頑張りましょう。

◆ ツル堀、窯詰めダブルプレー!

1月17日の森づくりの日は午前中コスモス館駐車場に集まり、8名でコスモス館東のツル根堀りを行い、午後は10名で竹炭窯の竹材充填に取り組みました。

今年の植林予定地のコスモス館東には大量のクズ根がはびこり、会員は植林前に撲滅しようと頑張っていました。日々、有志による撲滅作業をつづけています。

午後は植樹祭で育林行動皆勤者にお配りする竹炭焼き準備でした。狭い窯の中に、小割にした孟宗竹5~6本の竹材を丹念に窯の中に積み重ね、後は窯に土を盛ってこの日の作業を終わりました。会員は最後までお付き合い頂いた84歳の竹下英臣さんから元気を貰いました。



◆ 96歳の緑ファン

12月26日、かつて古賀の職場に勤務した福津市在住のSさん(96歳)から「若い頃から緑づくりに興味があるので会員として参加したい、どうすればよいか」と熱意に満ちた相談がありました。ところでこの日Sさんはイオンの新聞広告が誌上に出る中で「古賀市緑のまちづくりの会」を知り、(財)イオン環境財団に直接電話をして古賀市緑のまちづくりの会の担当者を捜しました。その結果、電話があり、滔々と緑への関心の高さと古賀市緑のまちづくりの会に関心があることを電話の先で語り、入会相談となりました。取りあえず「会員になるには会費を払うことで会員になれます」と答え、後日振込先を連絡する旨伝えておきました。そして翌日、会計さんが電話をすると家族が電話に出て「本人は足も悪くとても活動に参画できる状況にない」として入会断りがありました。

結果は別にして、96歳の力強い緑のファンがいることで、感激の一日でした。

◆ 講演会に 参加を!

2月21日に緑の会主催で「環境活動と森づくり」のテーマで講演会を行います。今回は、「古賀市10万本の森づくり」の意義と省エネ活動について、九州電力にお話しいただきます。ご近所お誘い合わせてお出かけください。

会員の声

年の夢と抱負

今年は己丑(つちのとうし)。土と牛との縁起の妙、原始の時代より(農業の始めより)大切な動力源として大切な農機具の役割としての、また、食品の一部(乳製品)として大切な関係が近年まで続いてきました。天地神明に誓って、土を汚すことなく万物の命として敬虔な祈りを捧げて生を愛おしく育んできました。

樹々を植えて緑を育て、CO₂を吸収して宇宙をきれいにして、四季をにあわせて時の花を咲かせて、世の中を明るく緑の会の活動で街起こしの一翼を担って果たして行きたいと思います。

「けふもまたこころの鉦をうち鳴らしうち鳴らしつつあくがれてゆく」 牧水の和歌を述べて、今年の抱負を表現しました。

緑の会では優れた人材が多く、顕著な実績も沢山あります。新たな事業は資金と植草地の選択等の事で県、市の所轄の方々との交渉も大きな問題でしようが、大根川の河畔に彼岸花を、そして四季にわたっての花卉の季節季節を楽しむことができる様にしたいものと思っております。御一考たまわり夢の実現が叶えば幸甚の至りに思っております。

(註;原文は長文のため、ご本人の了解を得て一部割愛させて頂きました)

竹下英臣